

第4回いわき市震災メモリアル検討会議 議事録

会議名		第4回いわき市震災メモリアル検討会議	
開催日時		2015.9.16(水) 14:00~16:00	開催場所 いわき市役所 第8会議室
参加者	検討委員	石丸委員長、福迫委員、高橋委員、正木委員、渡邊委員、藁谷委員、木村委員、林委員、強口委員、赤津委員、蛭田委員、曾我委員、芳賀委員	
	オブザーバー	川副オブザーバー	
	事務局	新妻部長、赤津課長、鈴木主査ほかふるさと再生課職員	
	トータルメディア	丹治・宮澤	
	記入者	荒木	
資料			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 第4回検討会議次第・委員名簿・席次表 ■ (資料1) 第3回検討会議の主な意見等 ■ (資料2) 事業コンセプト及び事業展開イメージ ■ (資料3) 提言書(案) 			
概要			
<p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 事業コンセプトについて</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回検討会議の主な意見等について、(資料1)に基づき説明した。 ○ 基本構想概略図及び理念等について、(資料2)に基づき説明した。 <p>(委員A)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本理念について、「復興に関わる人と地域をつなぐ」という表現が、限定的に感じる。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 対象を限定するつもりはなく、中核拠点を核としながら市内外の様々な方々と連携を図りたいという思いがあるので、適切な文言があれば置き換えたい。 <p>(委員B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「避難者受入れ」を復興拠点の項目のなかで整理してしまっていないか。どちらかという、「復興に向けての課題」という位置づけではないか。 <p>(委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現状では復興拠点としてまとめるが、基本構想・基本計画の段階で具体的な展開例を盛り込んでいけば良いのではないか。 <p>(委員C)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ メモリアルという言葉が、過去形の雰囲気のもと捉えられてしまうため工夫する必要がある。 ○ 資料2の施設構成[概念図]のなかに「防災備蓄倉庫」という項目があり、これは次の災害に備えるという未来形のニュアンスがあるため、いわき市としての意思表示として強調してはどうか。 ○ ただし、事業ミッションのなかを含めるのではなく、メモリアル事業のなかでどのようなタイアップの仕方があるのかを議論するべき。 <p>(委員B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業ミッションの3項目のなかに、次の災害に備えるというニュアンスを加えてはどうか。今のままでは将来の災害の備えが、どの項目に入るのかが分からない。 			

(事務局)

- 「防災備蓄倉庫」については、次の災害にいわき市が備えているということを示すため概念図のなかに盛り込んだ。しかし、市全体の防災計画との整合もあるため、事業ミッションとはある程度切り離して考えたい。
- 目的にある「現在進行中の復興のあゆみ」は、現在進行中であるということを強調するために使った表現である。この部分を事業ミッションに落とし込むと、「震災の記憶の保存と継承」が該当することになる。

(委員D)

- 三つの事業ミッションがすべて並列の項目として示されているが、「震災の記録の保存と継承」を核にすることが伝わる書き方にした方がよい。

(委員E)

- 資料のなかに「記録」と「記憶」が混在しているので、整理が必要ではないか。
- 三つの事業ミッションは、それぞれ対象とするものが異なるため、今のままの書き方でいいと思う。

(委員長)

- 記録は、ある経験を何らかの形で残したものだ。記憶は、人それぞれ思い浮かべるものが異なり、記録に接することによって一人ひとりが持つ記憶が想起されることになる。

(オブザーバー)

- 記録は媒体であり、その中の経験や記憶を残すことができる。さらに記録に残されたものから改めて経験は何であったのか、そして教訓は何であるかが引き出される。
- 文言の使い方に関しては、それぞれ定義を共有しておく必要がある。

(委員F)

- いわきの地下断層が、震災後どのような状況になっているのかということを調べる必要がある。

(委員長)

- メモリアル事業の中で、断層については資料があれば資料として保管することは可能だが、メインの内容ではないので、また改めて検討する。

(委員G)

- 「震災の記憶の保存と継承」を事業ミッションの核とするならば、基本方針の五つに優先順位をつけるべきで、五つのなかでは「アーカイブ構築」ということになるのではないか。
- 基本方針では「アーカイブ構築」がベースで、そこから派生して「学びの場づくり」や「復興・人材育成支援」につながっていくとしたほうが良いのではないか。

(委員B)

- 基本方針はニュアンスを重視し、誤解なく見やすい表現であれば正確に書かなくても良いのではないか。
- ここに正確性を求めると後々の段階で制約が出てきてしまうかもしれないため、今のままでも良いのではないか。

(委員長)

- アーカイブ構築がこの事業の核であることは共通認識として合意されている。
- 基本方針が並列的な書き方でも、基本認識さえしっかりしていれば問題ない。
- アーカイブの構築が核であることをしっかりと明示するべき。

(委員H)

- アーカイブ構築がベースとしてあることは賛成。
- 追悼と鎮魂については別問題で、アーカイブから派生するものではないと思う。よって事業ミッションの並列の並びに賛成。並列であるが、お互いがそれぞれに関連しているということをわかるような形にする。
- 概略図では表現に限界があり、各項目のつながりや流れについては提言書の文章のなかで表現すればよいのではないか。

(委員I)

- 並列の表現のままで良い。ただしアーカイブ機能の構築がメインであることを共通認識として持ち、明記すべき。

(2) 中核拠点施設の考え方について

(事務局)

- 中核拠点施設の考え方について、(資料2)に基づき説明した。

(委員D)

- メモリアル施設に学芸員やそれに類する人を配置し、収集・保存をしっかりできる体制を整えるべき。
- 収集・保存だけでなく研究というニュアンスも加え、研究成果を展示に活かすことも視野に入れたい。

(委員長)

- 施設概念図の収集・保存の中に「研究室」が含まれている。

(委員B)

- やまこしの「おらたる」では、追悼・鎮魂機能は具体的にどうなっているのか。

(委員C)

- 「おらたる」では追悼・鎮魂機能を大テーマとして取り上げていない。ただし、校庭に鐘つきを設置して震災の記憶を忘れないようにする機能は果たしている。

(委員B)

- アーカイブに接することで追悼・鎮魂につながるということが基本的な考え方だとすれば、追悼・鎮魂機能をベースに場所を選ぶのは好ましくない。
- 中核拠点施設においてアーカイブ機能が主であれば、それをベースに考える必要がある。

(委員J)

- 候補地の立地条件として、今回は沿岸部を候補として挙げたが、ネットワークを考えると必ずしも沿岸部でなくても良い気がする。拠点施設と各地区の施設、田人断層を含む震災遺構の関係について知りたい。

(委員C)

- 面積など空間の制約があるとき、施設構成のどの機能について優先度を上げるかが問題になってくる。
- 中核施設は追悼・鎮魂機能のためにつくるわけではないので、モニュメントのような形で、ほかのものは別格として扱うことでも良いと思う。
- 概念図では追悼・鎮魂機能が、雨ざらしのような場所に設置するように見えるので修正すべき。

(委員長)

- ネットワークについては、中越のような形での回廊はいわき市には向いていないと思う。
- ネットワークをメインとして考えるのではなく、中核施設を充実させたいうえで、市内の各地域との連携協力体制を維持していくという考え方がふさわしいのではないかと。
- 追悼・鎮魂機能の最終的な形態は、実施計画のなかで具体的に決まってくるのではないかと。

(委員G)

- 追悼・鎮魂機能のモニュメントは、屋内にあるべきだと思う。中核拠点を訪れること自体が追悼・鎮魂につながるという考え方である。
- ランニングコストについても考えていきたい。作りっぱなしという事態は避ける必要があり、維持管理も含めて検討すべきである。
- 経済的な視点を盛り込み、運営、集客、人件費についても考えていきたい。

(委員C)

- 入館料も含め、将来の維持費を念頭に置いて施設について考えたい。
- 立地条件については、アクセス性を考慮したい。また、周辺にそれなりの集客施設があり、相乗効果でお客さんが来てくれる場所がふさわしい。

(委員I)

- 予算に見合う規模の施設を作らなくてはならない。
- 参考として小名浜に「さんかく倉庫」があるが、これは県所有の倉庫で、そのなかの1つの交流館が空き家になっているため、リニューアルしてメモリアル施設として建てなおすことが可能かもしれない。
- 江名の消防施設を震災遺構として新たに加えることができる。津波の時に二階まで波にかぶったため、シンボリックな建物として希少価値があると思われる。

(委員L)

- 防災士の立場として、立地条件は安全性が確保できる場所が良い。再度被災が予測される地域に新設、もしくはリニューアルすることは避けた方が良くと思う。

(委員長)

- 各地域の震災以降の取り組みを把握して、ネットワークの要素となる震災遺構や施設を誰が維持管理しているか、管理状況がどうなっているかを知る必要がある。

(委員B)

- 候補地の立地条件として、面積とアクセスの二つは外せない。特にアクセスは、研究員が毎日そこに通うことを考慮しておかなければならない。
- 市街地辺りがアクセスや他施設との相乗効果も考えると良いのではないか。

(委員長)

- 前回会議では、次に震災が起きた際に再度被災するような場所は避けたほうが良いだろうという意見があったが、その条件も市街地は満たしていると考えられる。安全性も確保できている。
- 小名浜はこのような施設には向いていないのではないかと考えている。
- 必ずしも鎮魂がメインではないが、鎮魂にふさわしい場所という条件も満たせると尚良い。
- それなりの機能を果たせるだけのスペース確保、アクセスの良さ、災害時の安全性を満たしたうえで追悼・鎮魂に適した場所であれば尚良い。場合によっては震災遺産等を移設して追悼の場とすることも考えられる。

(委員K)

- 追悼・鎮魂にふさわしくないような場所に施設を設置することが想像しにくい。豊間がふさわしいのではないか。

(3) 事業展開について

(事務局)

- 事業展開イメージについて、(資料2)に基づき説明した。

(委員B)

- 展開イメージのネットワーク図は、中核拠点施設整備後の将来的な展開を示したものであり、ネットワーク全体の構築をめざすという意味で誤解されないよう、表現を工夫する必要がある。時系列をふまえた表現ができると良い。
- このネットワーク図だと、“すでにこのような形のものが完成しているからメモリアル施設を作る”という様に見えてしまう。
- 「地域資源ネットワーク」に挙げられている項目以外にも地域資源は存在し、“ほかの地域はどうなのだ？”という意見が出てくる可能性もあるので留意したい。

(委員長)

- ロードマップ内に記載されている内容は大体良いと思うが、ネットワーク図は将来的な展望を盛り込んで再度まとめなおしてほしい。

(委員C)

- ロードマップに時間軸を入れると良いと思う。ロードマップ中央の「拠点施設完成」が、三年後なのか五年後なのか、あるいは十年後なのかがよく見えてこない。
- 施設が完成するまでのプロセス(準備期間の動き)も明記した方が良い。

4. その他

(次回会議について)

○日時:10月19日(月)14:00～

○場所:いわき市役所本庁舎 第8会議室

5. 閉会

以上

〔署名〕

赤津 慎太郎

蛭田 修二